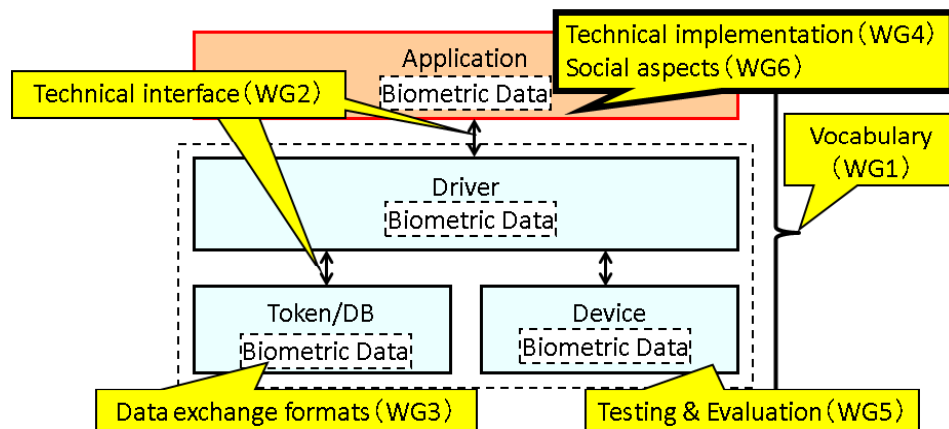


SC 37/WG 6 活動状況報告

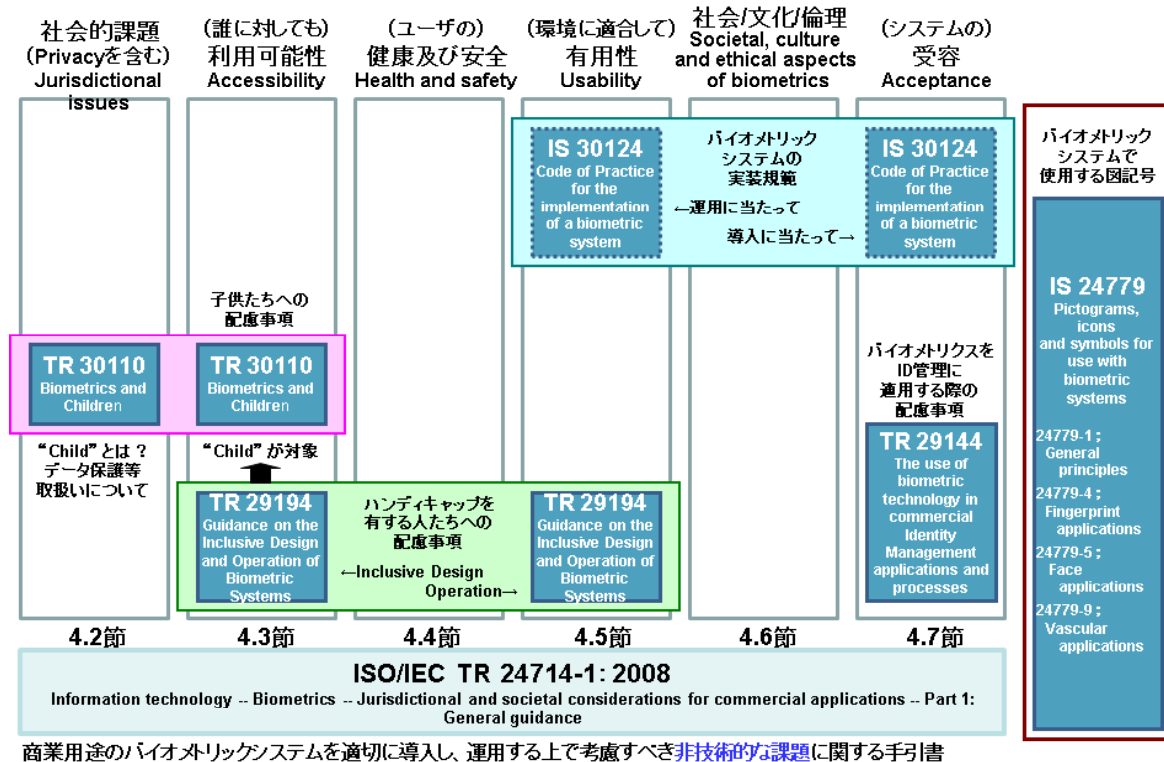
2014/10/7(火)
産業技術総合研究所
山田朝彦

SC 37/WG 6概要

- Cross-Jurisdictional and Societal Aspects of Biometrics
バイオメトリクス技術を適用する上での法域を越えた運用や社会的課題に対する標準化(ガイドライン化)
- 体制
コンビーナ: Mario Savastano(イタリア Federico II University)



WG 6各PJの関係



国内体制

- 主査: 山田朝彦(産業技術総合研究所)
2014年4月に山口利恵(東京大学)から交代
- 委員7、エキスパート3、オブザーバ2、
リエゾン1(SC 35/WG 4)
- 1回/月の頻度で委員会開催

過去1年間の状況概観

- 1月ダルムシュタット会議
参加者15名(日5、伊1、米2、加1、独2、英2、西1、ノルウェー1)
日本: 山口主査(東大)、瀬戸幹事(産業技術大学院大学)、宇都宮(エスアイリサーチ)、山田(産業技術総合研究所)
- 7月ウェストラファイエット会議
参加者16名(日3、伊1、米2、豪3、独1、英4、西2)
日本の参加は、宇都宮(エスアイリサーチ)、瀬戸(産業技術大学院大学)、山田(産業技術総合研究所)が参加
- 米、英、独、日、豪の活動が活発
- 継続PJ7件、次回2015年1月トレド会議では3件に減少

24779 Pictograms, Icons and Symbols for use with Biometric Systems

- バイオメトリック装置と関連して使用されるアイコンとシンボルを規定する
- 各パートは、WG 3の19794シリーズの各パートに対応
- ダルムシュタット会議で、ITTFエディタから、各パートに対し、新しいシンボルはISO/TC 145のレビューが必要とのコメントがあった。
WG 6はリエゾン関係がないので対応不要と結論したが、ダルムシュタット会議後、ISO Directives Part 2を確認し、レビューが必要との結論に至った。

IS 24779-5 Part 5: Face Applications

- エディタ: Shashi Samprathi (オーストラリア)
- 進捗: WDからWD
- 日本コメントに基づき、ISO/TC 145またはIEC/TC 3にレビューを受ける



IS 24779-9 Part 9: Vascular Applications

- エディタ: 宇都宮康夫 (日本 エスアイリサーチ)
- 進捗: DISからFDIS
- ダルムシュタット会議への IEC/TC 3からのリエゾンステートメントで、ドラフト内のシンボルについてコメントがあった。リエゾン関係がないとの理由で、コメント処理・採用せず。会議後対応が必要とわかり、FDISを発行できなくなった。
- ウェストラファイエット会議で、IEC/TC 3コメントへの対応方針を合意、IEC/TC 3へ確認後、FDIS作成した。SC 35/WG 4 リエゾン池田先生にIEC/TC 3との調整でご尽力いただいた。



TR 29144 The use of biometric technology in commercial Identity Management applications and processes

- エディタ: Michael Matheson (オーストラリア)
- 進捗: DTRからTR発行
- バイオメトリクスを導入する商用IdMにおけるバイオメトリクス使用の考慮点を、主にバイオメトリクス導入検討者向けに、まとめたTR
 - 登録から始まるライフサイクル全体の考慮点
 - IdM側におけるプライバシーの観点からの考慮点

TR 29194 Guide on the inclusive design and operation of biometric systems

- エディタ: Raul Sanchez-Reillo (西)
- 進捗: PDTRからTR発行
- バイオメトリックシステムの設計と調達におけるアクセシビリティとユーザビリティの問題に対するガイダンス
 - 障害等のある方などに対する配慮・考慮点などをまとめている

TR 30110 Biometrics and children

- エディタ: Mario Savastano (伊)
- 進捗: WDからWD
- TR 24714-1に基づき、以下の内容をまとめる
 - こどもの成長に伴うバイオメトリックデータの変化
 - こどもに特化したバイオメトリクス応用
 - こどもの保護
- 完成度はまだ低い

新規PJ提案に向けたコンビーナの活動

- ダルムシュタット会議では、WG 6での十分な審議がないまま、総会で新規PJの構想が紹介された。
- ウェストラファイエット会議でも、会議冒頭に、新規PJを検討したいとの具体性のない30分のプレゼンテーションがあった。
- SCセクレタリから、
法律と関係するPJは扱えない
やるべきPJが終了したらWGも終了することは問題ない
とのコメントがあり、議論は発展しなかった。

ご清聴ありがとうございました